

市長開会あいさつ（要旨）

議員の皆様におかれましては、何かとお忙しい中、ご出席を賜り、安芸市議会が開催できますことに厚くお礼を申し上げます。

このたびの選挙によりまして、新しく市長に就任いたしました横山幾夫でございます。何卒よろしく願い申し上げます。

はじめに、9月4日午前赤野・穴内地区で竜巻などによる突風が発生し、園芸ハウスの変形で約7.1アール、ビニールの破損で約12.7アール、10棟9戸の農家が被害を受けました。

市では、がれき処理など対応に努めてまいりますが、改めて被害に遭われました皆様方に心からお見舞いを申し上げます。

本9月市議会定例会は、私にとりまして初議会となりますので、まず、今後の市政運営の基本的な考え方を申し上げたいと存じます。市政運営の具体的な諸施策につきましては、来年度の予算編成を伴いますので、予算編成の基本方針を定めて、改めて予算案と併せて申し上げたいと存じます。

この歴史と伝統のある安芸市に、新たな1ページを加え、活気あるまちとして次の世代に引き継いでいくため、これからの4年間、議員の皆様方、市民の皆様とともに考え、ともに行動し、市民の皆様が誇りを持てる安芸市の実現に向けて、全力をあげてその責務を遂行する決意を新たにしているところでございます。

今、本市に求められているのは、市政の安定、信頼の回復であると考えております。「行政は住民のためにある」という当たり前過ぎるほどの基本を、職員や市民の皆様とあらためて明確に共有し、自由闊達な議論の中から、より良い方向を見出してまいりたいと考えております。

今回の選挙を通じて、私が訴えてまいりましたことは、「対立から対話へ、そして協調・協働へ」であります。そのために、私は市民の皆様の声に、真摯に耳を傾けてまいります。

安芸市政に停滞は許されません。決断までに猶予されている時間は、そう長くないのが現実です。予断なく、あらゆる選択肢を排除せず、虚心坦懐に市民の皆様のお聞きし、そして最終的には、私がリーダーシップと責任をもって、決断をさせていただく所存であります。

私は市政を運営する上で、まず、第一に、対話をまちづくりの基本姿勢としながら、市民の皆様との信頼関係を強固なものにしていきます。

第二に、温かみのある、持続可能な行財政運営を行ってまいります。

第三に、市民の皆様のお思いや力を結集するとともに、東部地域の各市町村や関係機関等との連携体制や信頼関係を、本市の総合力として最大限に発揮しながら、より一層大きな成果を生み出すよう努めてまいります。

これらを基本に、市民の代表であります議会の皆様との連携を強めるとともに、職員の能力を生かし、育て、信頼と話し合いを基本に施策を進めてまいります。

さて、本市の喫緊の課題であります、新火葬場建設につきましては、現在裁判中である建設予定地は裁判の判決がいつ出るか分からないのが現状でありま

す。多くの市民の皆様は、新火葬場の早期建設を望んでいますので、議会、市民の皆様のお知恵をお借りしながら、係争中の候補地以外への早期建設に向けて取り組んでまいります。

南海トラフ巨大地震対策については、「減災」の視点を重視し、津波対策を迅速に進めるとともに、防災のまちづくりをスピード感を持って取り組んでまいります。

また、2万人を切った本市の定住人口をこれ以上減らさないためには、どうしても雇用の場を広げる必要があります。同時に、若者世代、特に子育て世代に対しての支援が必要です。給食センター建設、学童保育所の充実等を、さらに進め、共働き世帯が多い中、安心して子育てができる教育環境の整備に努めてまいります。

改めて申し上げるまでもありませんが、先月の市長選挙では、これらのほかにも、課題を挙げ、取り組まなければならない施策を掲げております。これらひとつひとつに責任を持って対応してまいり所存でございます。

安芸市は素晴らしいまちです。地域のポテンシャルと市民の皆様の意識は高く、信頼によって力を合わせれば、新火葬場建設を初めとする課題は、必ずや解決できるものと確信しております。公平無私で、早期の課題解決に取り組む、「信頼の安芸市」を議会と市民の皆様と一緒にあってつくり、明るいニュースを発信してまいりたいと考えております。

それでは、継続している市政の主要課題等につきましてご報告申し上げます。

まず、平成24年度の財政健全化の判断指標についてであります。

財政健全化の判断指標となる4つの比率につきましては、実質公債費比率が

平成22年度から平成24年度までの3ヵ年平均で16.6%、将来負担比率が103.6%となっております。

実質赤字比率と連結実質赤字比率につきましては、ともに黒字決算となっております。また、公営企業の資金不足比率につきましては、水道事業会計、公共下水道事業特別会計、農業集落排水事業特別会計、住宅団地整備事業特別会計のいずれも資金不足が生じていない状況となっております。

次に「南海地震対策」についてであります。

国難とも言える甚大な被害が想定される南海トラフ地震に備えるためには、国を挙げての防災・減災対策が重要であり、「南海トラフ巨大地震対策特別措置法」「国土強靱化基本法」の早期制定と、防災対策費の財源確保や補助率の嵩上げ等の充実について、市長会を通じて国に強く要望してまいります。

現在、周辺に津波避難ビル等がなく、十分な避難時間が確保できない土居五造地区、千歳町地区では、津波避難タワー建設について地域住民の皆様と協議を重ねてきており、今議会の補正予算で実施設計費を計上しております。

染井保育所の耐震化に当たっては、保護者会の代表者や地域住民を交えた染井保育所耐震化対策検討委員会から、現保育所周辺の浸水区域外への建て替えを望むご意見を頂いております。

市としましては、検討委員会で頂いたご意見をもとに、被災後の保育再開が可能な場所の検討を進めており、議会にご相談しながら、早期の完成に向けて取り組んでまいります。

次に、「農業」についてであります。

農業後継者対策として取り組んでおります新規就農者支援事業で、これまでに7名の研修生が就農しており、現在は新たに2名が受け入れ農家のもとで研修をしております。

本年9月からは、新規就農者が土佐あき農業協同組合の園芸ハウスを借り受け、営農指導などの支援を受けながら実績を積む就農サポートハウスの取り組みが始まっており、農家での研修を終えた研修生1名が就農いたしました。

今後におきましても、就農者対策に引き続き取り組み、施設園芸産地の維持、発展に努めてまいります。

次に、「商工・観光振興」についてであります。

10月12日、13日の2日間、高知東海岸グルメまつり、全四国ご当地じゃこサミット、商工フェアを安芸市役所周辺で同時開催いたします。

今年で4回目の開催となる高知東海岸グルメまつりでは、四国東南部に加えて、小京都の取り組みでご縁をつないだ福井県大野市からもご参加いただき、食の魅力を一堂に楽しめるイベントとなっております。

全四国ご当地じゃこサミットでは、県内屈指の水揚量を誇る本市のシラスをPRするとともに、産業祭をリニューアルした商工フェアでは、安芸市内の商工業のお祭りとして多くの方に楽しんでいただけるよう取り組みを進めているところであります。

9月1日からは観光部門の地域おこし協力隊員を1名採用しており、本市の観光資源の「見つめ直し」と「掘り起し」とともに、ブラッシュアップや体験観光のプログラム化に取り組んでいただき、魅力ある観光プランづくりを進めてまいります。

次に「ねんりんピック」についてであります。

高齢者を中心とするスポーツ・文化活動の祭典「ねんりんピックよさこい高知2013」では、本市は10月26日から28日の日程で将棋交流大会を開催いたします。

本大会は、全国から69チーム、205人の選手が参加を予定しており、世代や地域を超えた交流の輪が広がるよう選手のみなさんをおもてなしの心で温かくお迎えいたします。

最後に、「教育」についてであります。

本年4月に行われた全国学力・学習状況調査では、小学校6年生を対象に国語・算数、中学校3年生を対象に国語・数学が実施され、8月に結果が公表されております。

本市の調査結果につきましては、小学生は国語・算数ともにほぼ全国平均並みで、中学生では国語・数学とも全国平均を下回っております。

今後は、これまでの効果的な取り組みを継続しつつ、学力調査の結果から課題を明確にし、課題解決に向け、児童生徒の基礎的・基本的な学力のより一層の定着に取り組んでまいります。

学校給食の実施につきましては、「安全安心でおいしい給食」「食育の推進」を基本的な柱として、実施方式や建設場所などについて協議・検討を重ねてまいりました。

安全で効率的な給食の供給や津波対策を視野に入れた高台への整備など総合的に勘案し、今議会の補正予算に清水ヶ丘中学校の寄宿舍跡への給食センター実施設計費を計上しております。

平成27年度中の完全給食実施に向けて、効率的・効果的な方法による管理

運営の徹底や地産地消の取り組みに努めてまいります。

以上、6月からこれまでの主な事業の取り組み概況について申しあげました。

10月からは、実施計画の策定と平成26年度予算編成に入っておりますが、私が申し上げました3つの基本姿勢の下、本市の喫緊の課題の解決と市長選挙で掲げた公約の実現に取り組み、住みよく、活力ある安芸市づくりに向けて、一步、一步、着実に歩みを進め、市勢発展に全力で取り組んでいく所存でありますので、議員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます、開会のご挨拶といたします。